新宿区立牛込第二中学校
校長　松澤　亮

令和４年度　新宿区立牛込第二中学校　学校経営方針

1　教育目標

人間尊重の精神を基盤として、知性、感性及び道徳性に富み生涯を通して主体的に学ぶ生徒の育成を願って

◎自ら学び、考え、行動する人

◎思いやりと責任感のある人

◎健康で心豊かな人

2　目指す生徒像

●目標をもち、向上心を忘れず、主体的に学び続ける生徒（確かな学力）

●相手を尊重し、感謝の気持ちを忘れず、最後まで責任をもちやり遂げる生徒（豊かな心）

●進んで心身を鍛え、たくましく生き抜く力を身に付ける生徒（健やかな身体）

3　目指す学校像

●安心安全で、厳しさの中にも心温まる活気に満ちあふれた学校

●個に応じて能力を伸ばし、感動を与え、自信と誇りをもたせる学校

●保護者・地域との連携を深め、信頼に応える学校

4　目指す教職員像

●「チーム牛二中」の一員として協働できる教職員

●使命感をもち、計画・実施・分析・改善のサイクルを意識して、専門性の向上に努める教職員

●相手を尊重し、生徒・保護者・地域から信頼される教職員

5　目指す授業像

●生徒の問いと意欲を引き出し、自ら学ぼうとする生徒を育成する授業

●試行・考察・共有・改善の流れが組み込まれている授業

●生徒一人ひとりの理解度に応じたきめ細やかな指導を行う授業

6　学校経営の基本方針

●生徒の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」をバランスよく育成する。

●安全で安心して学べる環境を確保し、生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくる。

●計画・実施・分析・改善のサイクルを確実に行い、全教職員で組織的に学校を運営していく。

7　令和４年度重点取組

① 多様な教育機会の確保	●不登校や教室に入れない生徒への多様な教育機会の確保
② 基本的な感染症対策の徹底	●感染症対策と学校教育活動との安全な両立
③ 生徒の主体性の伸長	●生徒の主体性を伸ばし、自信を深めさせる教育活動
④ 道徳科授業の充実	●「考え、議論する道徳」を実践する道徳科授業時数の確保

学校経営の基本方針に対する具体策

◎生徒の「確かな学力・豊かな心・健やかな身体」をバランスよく育成する。

① 確かな学力を定着させるために

●生徒の問いを重視し、学習意欲を引き出すために、創意工夫した授業実践を行う。

●生徒が課題について試行し、結果や方法を考察し、クラスや班内で考えを共有し、改善したり活用したりする流れを授業に組み込むことを共通実践する。

●GIGA 端末を活用し、学びの最適化や効率化を図る。

●不登校や教室に入れない状態であっても、多様な教育機会について工夫し、学びを継続させる。（**多様な教育機会の確保**）

●読書活動を推進し、読解力を高めたり、読書に親しんだりする姿勢を育成する。

●幅広い体験学習を充実させ、豊かな人間性や価値観の形成及び課題発見や課題解決能力の育成を図る。

●キャリア教育により自己理解を深めさせ、主体的に進路を選択・判断できる能力を育成する。

●新宿区学力定着度調査等の結果を分析し、授業改善と教育活動の検証に取り組む。

●ボランティア等を活用した放課後学習支援を計画的に実施し、基礎学力の向上を図る。

●新宿区教育ビジョンに即し、漢検・数検・英検などに積極的に取り組ませ、生徒の学習へのモチベーションを高める。

② 豊かな心を育てるために

●「あじみこし」を意識した生活態度の育成を図る。

●「特別な教科　道徳」の授業の充実を図るともに、全教育活動を通して、自他を尊重することができ、思いやりをもつ生徒の育成に努める。（**道徳科授業の充実**）

●生徒会活動・学級での係活動・部活動などの協働作業における自治活動の推進を図り、生徒が自他の特性を認め、お互いに成長できるよう努める。（**生徒の主体性の伸長**）

●「あいさつ運動」「ありがとう運動」を推進し、学校生活を通して、生徒の社会性や感謝する心の育成を図る。

●特別支援コーディネーターを中心とした組織的な支援体制を充実させるとともに、「まなびの教室」を積極的に活用し特別支援教育の推進を図る。

③ 健やかな身体を育てるために

●基本的な感染症対策を徹底し、学校生活と両立させる。（**基本的な感染症対策の徹底**）

●保健体育を男女共修とし、バランスよく体を動かすことを学ばせる。

●ダブルダッチを活用し運動への関心を高め、運動の日常化を推進し体力の向上を図る。

●給食の時間、家庭科の授業や食育講演会等を通して、バランスのとれた食習慣を身に付けさせる「食育」を推進する。

●学校安全指導計画に基づいた「安全教育」の充実を図る。

◎安全で安心して学べる環境を確保し、生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくる。

① 当面する教育課題への対応

●「牛込二中はいじめを許さない」という共通認識のもと、いじめが発生した場合は「いじめ対策委員会」を中心とした学校組織として対応する。

●第１学年では、中学生と地域が連携した防災訓練を、第２学年では、サイバー犯罪を、第３学年では薬物をテーマにした学習の場を設け、計画的に安全教育の充実を図る。

●第１学年では、情報モラル教育出前講座を活用し、ネット社会における適切な対応のあり方について学習を深める。

●ソーシャルネットワークサービス（SNS）にかかわる課題、薬物乱用防止等、最新の状況を踏まえた適切な指導を行っていく。

② 地域協働学校としての取り組み＜地域が参画する学校運営＞

●地域協働学校として、学校運営や学校評価、学校支援活動についての協議を通し地域・保護者の参画を促し、地域に根ざした教育活動の充実を進める。

●学校運営連絡協議会で、学校運営上の課題を共有し、改善に向けた具体的な取組を推進する。

③ 信頼を高めるための取り組み

●危機管理への対応として

・校内における報告・連絡・相談を徹底する。

・問題行動には、迅速かつ組織的な対応を徹底する。

・食物アレルギー等、管理及びチェック体制を遵守し、確認を徹底する。

・学校から保護者・地域等へ積極的に情報発信し、法令遵守を果たす。

●教職員の服務規律の遵守について

・体罰、セクハラ、飲酒運転、個人情報の流出、その他信用失墜行為を厳に戒め、保護者や地域住民からの信頼を損なわないように留意する。

●教育環境の整備・充実

・生徒が１日生活するという視点で教育環境の改善（整理整頓等）に取り組む。

・学校全体で適切な言語環境を整え、教職員が自ら範を示すよう言動を徹底する。

・掲示物等については、その目的と適時性をとらえた内容となるよう工夫し、人権保護・多様性尊重の視点に配慮する。

●学校として必要な情報の収集と適時性のある情報の発信

・学校の教育活動を円滑に進めるための情報収集と適時性のある情報発信を行い、学校の教育活動への安心感と信頼感を獲得する。

●接遇の改善

・保護者や地域の方など、学校に寄せる気持ちを真摯に受け止め、誠実・丁寧な対応を行なう。

●教職員の健康管理

「働き方改革」を推進し、業務の効率化・定時退庁などを実践する。生徒の充実した教育活動には、教職員の健康が不可欠なことを認識させる。

◎計画・実施・分析・改善のサイクルを確実に行い、全教職員で組織的に学校を運営していく。

① 計画・実施・分析・改善のサイクルを確実に行うために

●教育活動を着実に分析（評価）し、改善へとつなげていくことを全教職員で意識する。

●新しく活動を始めるときは、効果の低い活動を見直し、または廃止することを徹底する。

② 全教職員で組織的に学校を運営するために

●提案・実践が主体的に行われるよう「情報の共有」を意識した組織運営を行う。

●教職員が協力し、磋琢磨し、個々の資質向上を図り、より良い教育活動の実践に結び付ける。

●職層や分担を活用し、OJT の意識をもって、全体の指導力向上を目指す。

③ 誇りのもてる牛二中の教育の創造

●学校評価を活用し、課題と成果の共有を図る。また、学校関係者の学校への主体的なかかわりを促し、教育活動の改善に取り組んでいく。

④ チームとしての生徒指導

●生徒理解と信頼関係による指導

・根底に尊重の精神をもち、生徒への共通理解と共通実践を基本に指導にあたる。

・日々の活動、実践を通して、信頼関係を構築することを大切にする。

・生徒の気になる様子は、保護者等に連絡するとともに、連携・協力して指導にあたる。

・「hyper-QU」を活用し、生徒理解を深め、学級経営、学年経営の一層の充実を図る。

●生徒が取り組む過程を評価

・生徒には失敗したことから学ばせ、次の機会に活かせるように指導する。

・プロセスを適切に評価する。生徒の創意工夫や継続的な取り組みなどを大切にする。

●自信と自覚を深める指導生徒が取り組む過程を評価

・生徒に困難を乗り越えること、課題を克服していくことで自信と自覚を深めさせる。

●義務教育最後の３年間を担当するという使命感をもった取り組み

・一社会人として卒業する生徒が身に付けるべき資質とは何かを考え、各教科や教育活動を通して、人を育てることの使命感をもって指導にあたる。